

東京芸術劇場の取り組み

すべての方が同時代の芸術を 享受できる劇場を目指して

APPROACH-1 鑑賞サポート

東京芸術劇場は、すべての方に開かれた公共劇場としての在り方を模索し、2009年7月の野田秀樹芸術監督就任記念プログラム『ザ・ダイバー』を最初に、視覚障害や聴覚障害をお持ちの方を対象とした舞台公演の鑑賞サポートの取り組みを開始しました。以来試行錯誤を重ね、現在では演劇公演における「視覚障害者のための舞台説明会」「聴覚障害者のためのポータブル字幕機提供サービス」と、音楽公演における「視覚障害者のための公演説明会」を、主催・共催事業の一部で実施しています。

「舞台説明会」や「公演説明会」では、公演当日の開演前に目の不自由なお客様に劇場へお集まりいただき、鑑賞時によりイメージ豊かに作品を楽しんでいただけるよう、演劇公演においては舞台美術や登場人物、物語などについて、音楽公演においては曲目や楽器、出演者などについて説明しています。「ポータブル字幕機提供サービス」では、耳の不自由なお客様が演劇公演観劇中に、台詞や音の情報を手元で確認できるような字幕機を無料でお貸ししています。

最近では、これらの鑑賞サポートを利用されたお客様同士が、スタッフを交えて、公演の感想や意見を交わす場所作りも試行し始めました。2015年8月の『気づかいルーシー』終演後の意見交換会では、松尾スズキ原作による



視覚障害者のための公演説明会「ランチタイム・パイプオルガンコンサート Vol.115」

シュールな作品を「見えないお客様」と「聞こえないお客様」がそれぞれどのように鑑賞されたか率直な意見が交わされ、スタッフも新たな気づきを得られました。

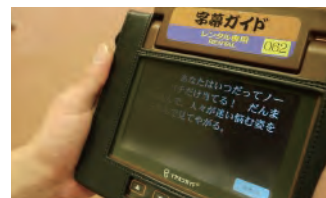
障害をお持ちの方が、その障害をハードルと思われることなく同時代の芸術に親しんでいただけるよう、当劇場はこれからも鑑賞サポートの充実に取り組んでまいります。鑑賞サポート対象公演の情報は、公演チラシや東京芸術劇場HPなどで随時お知らせしています。

東京芸術劇場HP / <http://www.geigeki.jp/fukushi/index.html>



視覚障害者のための舞台説明会

「気づかいルーシー」公演では、実際に舞台にあっていただき、フラットな舞台上の積み木が、シーンによって積み替えられ、場面転換していく様子を説明しました。



聴覚障害者のためのポータブル字幕

演出や周囲の方の鑑賞の妨げにならないよう、画面が光らないように工夫された最新のシステムを使用しています。

APPROACH-2 舞台技術セミナー

舞台技術を学び合う！テーマは、立体に音響のイメージを構築する「空間音響演出」



東京芸術劇場では、将来の公共劇場を担う人材の育成を目的として、2013年度より「アーツアカデミー東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修」を実施し、その一環で舞台技術セミナーを開催しています。本セミナーは舞台芸術に携わる方に限らず、学生や舞台技術に関心がある方など幅広くご参加いただけます。

今回は劇場における空間音響演出をテーマに、電気のない時代から現在の最新機材に至るまでを紹介し、実際の機材を使用した実演も交えて、これからの劇場音響演出の展望や劇場の音響システムに求められるものとは何かを考えていきます。

舞台技術

東京芸術劇場 舞台技術セミナーvol.6
「空間を聴く・空間をイメージする」
5月24日(火) プレイハウス
【参加費】1,000円(先着順・要事前申込み) 詳細は劇場HPへ
【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116

主催：アーツカウンシル東京 / 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

INFORMATION

鑑賞サポート

目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス(無料・要事前申込)等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

4~6月
対象公演

「ナイトタイム・パイプオルガンコンサートVol.14」(4月21日/お付添を除く先着10名様まで)